

【参考資料】

目標量の設定に伴う今後の課題

まちなか駐車場適正化計画の推進にあたっては、駐車場施策と公共交通施策が互いにバランスを取りながら進めることが重要です。例えば、公共交通の利用促進を図るために、過度にまちなかの駐車場を減らしてしまうと、駐車場不足に伴ううろつき交通が慢性的に発生し、まちなかの渋滞が発生してしまいます。

令和元年度と令和7年度の駐車場の実態調査によると、本計画で位置付ける路外駐車場のうち事業者用駐車場(a)の台数については、まちなか再生プロジェクトをはじめ、建築物の建替えや新築の促進施策を推進してきましたが、駐車場台数の減少が確認されず、店舗用駐車場(b)及び時間貸駐車場(c)と相反する結果となりました。

そこで、今後はこれらの傾向を継続して把握するとともに、「まちなか駐車場適正配置検討委員会」にて駐車場の実態調査の在り方を検討します。

さらに、今後も継続して駐車場施策を推進するため、まちなか駐車場の稼働率を的確に把握し、それに基づく駐車需要を算定することで、適正な駐車場台数の把握に努めます。また、中心市街地を取り巻く環境変化を的確に捉えた目標量の設定に努めます。

	R1 (前回調査時)	R7 (今回調査時)	増減 (R7-R1)
事業者用 駐車場 (a)	1,783	1,921	+138 計:-599台
店舗用 駐車場 (b)	1,954	1,408	-546
時間貸 駐車場 (c)	15,653	15,600	-53
合計	19,390	18,929	-461

▲路外駐車場の内訳及び増減数

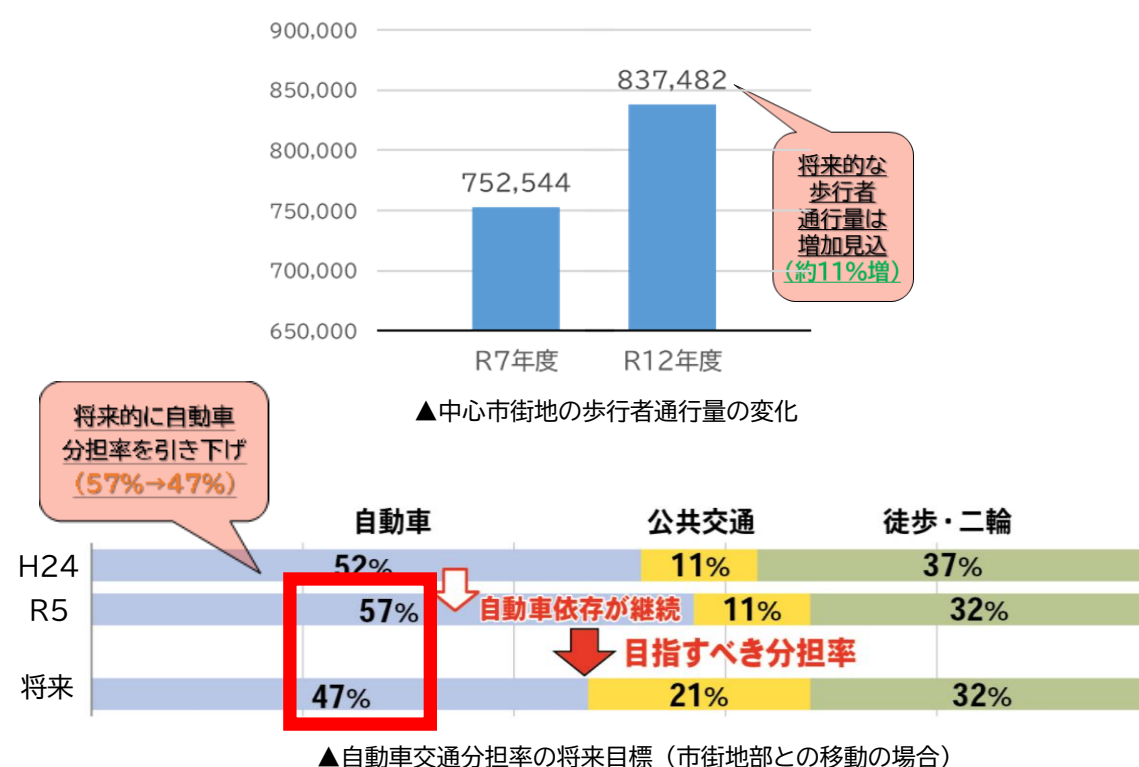
■中心市街地を取り巻く環境変化を踏まえた場合の駐車場台数【ケーススタディ】

中心市街地は令和12年にかけて歩行者通行量は約11%増加する見込みであるとともに、都市交通マスタープランに掲げる将来(概ね20年後)の自動車交通分担率を57%から47%へ引き下げることとするため、これらを加味した駐車場台数を算定すると16,432台となります。

そのうち、通町筋・桜町周辺地区と熊本駅周辺地区に分けて、対象エリア内の適正台数を算定すると、通町筋・桜町周辺地区が13,310台、熊本駅周辺地区は3,122台となります。

熊本駅周辺地区については、平日の駐車場稼働率が6割にも満たないことから、休日ピーク時に合わせて必要な駐車場台数を算定すると、平日には利用されない駐車場が散見されるため、令和12年にかけては、現在の駐車場台数の2,704台を維持します。

以上のことを踏まえ、中心市街地の駐車場整備地区内の駐車場台数は約16,000台となります。



対象地区	整備台数(R7)	適正台数(R12)	目標量(R12)	備考
駐車場整備地区	17,008台	16,432台	16,014台	
【内訳】				
通町筋・桜町周辺地区	14,304台	13,310台	13,310台	
熊本駅周辺地区	2,704台	3,122台	2,704台	現状台数を維持

▲駐車場整備地区及び各地区の適正台数等